

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------------------------|----|-----------|
| ○事業所名 | 敦賀市立子ども発達支援センター パラレル 保育所等訪問支援事業所 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年12月24日 | | 令和7年1月24日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 91 | (回答者数) 54 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年12月24日 | | 令和7年1月24日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 2 | (回答者数) 2 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和6年12月24日 | | 令和7年1月24日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象数) | 33 | (回答数) 26 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年2月25日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 訪問支援員自身が、経験が豊富。敦賀市内の園、施設の情報の把握が広く、横の繋がりも多い。 | 基本的には訪問支援員が各保育園や施設を訪問しているが、状況把握や、連携の意味を含めて、児童発達管理責任者や担当職員と一緒に同行する機会も設けている。 | 状況によって会議を行ったり、保育士向けの研修を次年度も開催する予定でいる。 |
| 2 | 就学に向けての引継ぎも、保育所等訪問支援員も含めしっかり行っている。 | 学校の現状、保護者の方のご希望を踏まえて、就学前に引継ぎ会議を行っている。 | 不安になりがちな就学の時期を、安心してすすめていけるように今後も保護者に寄り添い、ご希望に合わせて引継ぎ会議や面談を行っていく。 |
| 3 | | | |

| | | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 訪問の希望があった場合に、時期によっては迅速な対応が困難なこともある。 | 利用児の人数、訪問園に対しての訪問支援員の人数が少ない。 | 必要性や、時期を訪問先と話し合い、決めていく。 |
| 2 | 単独利用+保育園への送迎ありで通う保護者の方への、訪問の報告が遅れがちになっている。 | 利用児の人数、訪問園に対しての訪問支援員の人数が少なかったり、勤務体制の問題での困難がある。 | 必要に応じてLINEの活用や、電話を通じての報告を行っていく。伝え方を希望も踏まえて、保護者の方と検討していく。 |
| 3 | | | |